



バイオ・エレクトロニクス・フォトニクスの融合による ニューロモルフィックコンピューティング

第73回応用物理学会春季学術講演会シンポジウム

生体神経の原理に学ぶニューロモルフィックコンピューティングは、従来の計算アーキテクチャを超える革新的な技術として注目されています。本シンポジウムでは、バイオ、エレクトロニクス、フォトニクスの最新研究を結集し、分野融合による新たな知能システムの可能性を議論します。

日時 3/17(火) 13:30～18:15

場所 東京科学大学 大岡山キャンパス WL1_301

**招待
講演**

田中 啓文 (九州工業大学)

ナノ材料を用いた物理リザバーの構築と知的システム応用の可能性

酒井 洋児 (NTT物性科学基礎研究所)

培養神経回路網を理解するための柔らかいバイオエレクトロニクス

池内 与志穂 (東京大学)

軸索配線を介した大脳オルガノイドの機能向上

香取 勇一 (公立はこだて未来大学)

リザバーコンピューティングに基づく予測符号化モデルによる多感覚統合とノイズ適応型神経計算

稻垣 卓弘 (NTT物性科学基礎研究所)

光発振器ネットワークを用いた組合せ最適化と脳型情報処理への展開

長谷川 幹雄 (東京理科大学)

無線通信システムにおけるリソース選択問題へのレーザカオス意思決定の応用

大久保 潤 (埼玉大学)

クープマン作用素によるニューラルネットワークの線形化と応用

酒見 悠介 (千葉工業大学)

超低消費電力AIを実現するアナログ・インメモリ計算の数理基盤